

平成26年度研究成果報告書《平成26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	35	都道府県・指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	農業
研究課題	○将来の地域産業や地域農業を支える人材育成に資する農業科教育の在り方についての研究 ①座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善 ②原則履修科目「農業と環境」(※以下、「農業と環境」)における学習状況の把握に資する調査研究				
ふりがな 学校名(生徒数)	やまぐちけんりつやまぐちのうぎょうこうとうがっこう 山口県立山口農業高等学校(472人)				
所在地(電話番号)	〒754-0001 山口県山口市小郡上郷980-1 電話:083-972-0950 FAX:083-972-0801				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.yamaguchi-a.ysn21.jp/				
研究のキーワード	① 学科毎の「身に付けさせたい力」の明確化 ② 指導方法, 評価方法の改善				
研究成果のポイント	① 「目指す進路先」「育てたい生徒像」「身に付けさせたい力」を明確にすることにより, 学習活動全体にその方向性をはっきりと反映させやすくなった。また, 教員の指導や座学と実習の連携した取組が統一感をもって展開しやすくなった。 ② 「農業と環境」における「身に付けさせたい力」の作成により, 指導のポイントが明確になり, 生徒の学習意欲の喚起, 教員の授業力の向上につながった。 ③ 年間指導計画や評価規準を見直すことで, 科目の目標に向けた指導計画が作成でき, 指導と評価の一体化を図ることができた。 ④ 観点別評価方法を改善し, 学習内容の定着状況の把握, 観点別評価の指針ができた。 ⑤ 山口農業高校版ルーブリック評価の実施により, 授業に対する課題を生徒と教員で共有しやすくなった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

将来の地域社会を担う人材育成に資する専門教育の在り方についての実践研究
 ～生徒に「身に付けさせたい力」の明確化と指導方法, 評価方法の改善～

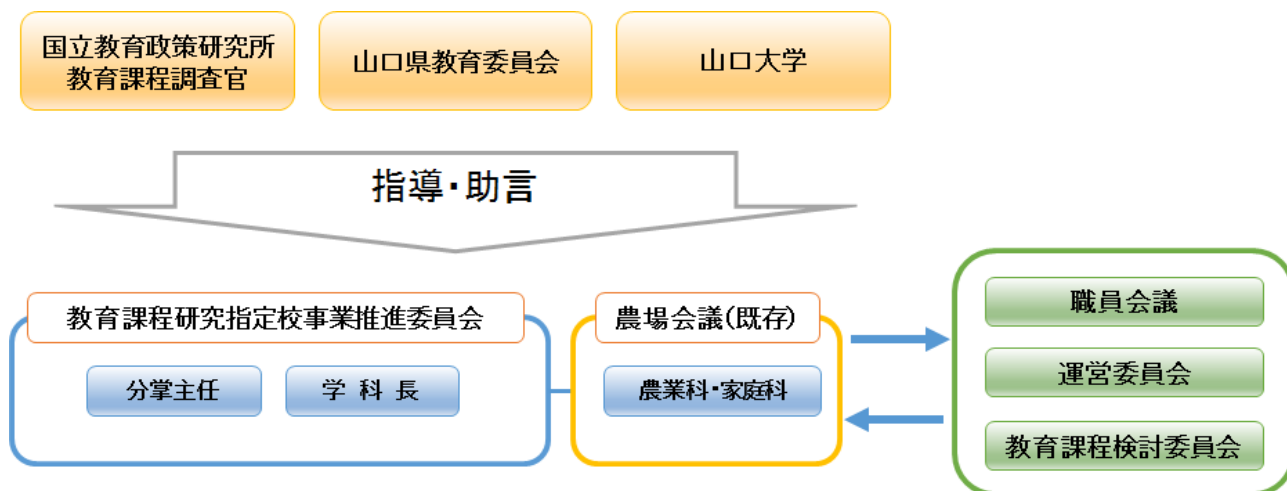
(2) 研究主題設定の理由

本校は平成27年に創立130周年を迎える伝統ある農業高校であり, これまで, 山口県内の地域産業を担う人材を輩出してきた。現在は, 生物生産科, 食品工学科, 生活科学科, 環境科学科の4学科で編成されており, それぞれの学科の特色を生かした教育を行っている。

しかし, 地域経済の停滞や農業を取り巻く情勢の変化に伴い, 農業や農業関連産業の学科の専門性を生かした職業へ従事する卒業生は減少してきた。また, 入学してくる生徒の能力, 適性, 興味・関心も多様化しており, 生徒の学習ニーズの幅も広がっている。そのため, 生徒の卒業後の進路は多様であり, 在学中に明確な進路目標を見付けられない生徒も増えてきている。このような中, 社会情勢や生徒の実情に応じた専門教育を行うために, その学習教材の工夫や座学と実験・実習を密接に関連付ける等の指導方法の改善を行って, 生徒の進路に密接に結びつく教育の展開が喫緊の課題

であると考えている。そこで、4学科全てにおいて、将来の地域社会を担う人材を育成するために、生徒に「身に付けさせたい力」を明確にし、そのための指導方法、評価方法の改善を図ることを研究の目的とした。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ○各学科の「目指す進路先」「育てたい生徒像」「身に付けさせたい力」の明確化 ○「農業と環境」における「到達目標」の作成 ○「農業と環境」年間指導計画の作成と評価規準の見直し ○「農業と環境」研究授業、プロジェクト発表会の実施 ○授業規律・実習の心得の見直しと生活面のアンケート調査 ○資格取得指導計画の見直し ○若年自営者講演会の実施
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 各学科の「身に付けさせたい力」の明確化

(ア) 学科の特色，地域社会のニーズ，過去の進路状況を踏まえた「目指す進路先」「育てたい生徒像」の見直し

(イ) 「目指す進路先」を実現するための「身に付けさせたい力」の検討

イ 指導方法，評価方法の改善

(ア) 「農業と環境」における座学と実習を密接に関連付けた指導方法，評価方法の改善

(イ) 授業規律，実習心得の見直しと生活面のアンケート調査

(ウ) 資格取得の指導計画の見直し

(エ) 若年自営者の講演会，学習発表会の実施

(2) 具体的な研究活動

ア 各学科の「身に付けさせたい力」の明確化

(ア) 学科の特色，地域社会のニーズ，過去の進路状況を踏まえたうえで，学科毎の「目指す進路先」・「育てたい生徒像」を見直し，各学科の「身に付けさせたい力」を検討し，教科横断的な山口農業高校の「身に付けさせたい力」の概略図を作成して教職員へ周知した。

イ 指導方法，評価方法の改善

(ア)「農業と環境」における指導方法，評価方法の改善

- ・年間指導計画の見直しを行い，各単元の観点別評価規準・評価割合を見直した。
- ・見直した評価規準・評価割合から学習の実施状況をまとめた。
- ・生徒に学習目標を示すため，各単元又は題材毎に「身に付けさせたい力」を作成した。
- ・「座学用」「実習用」「実験用」の山口農業高校版ルーブリック評価を作成し，授業の取組に関する評価を実施した。
- ・大学教授や県内の農業教員を招いて，座学と実習の両方の研究授業を実施した。

(イ) 授業規律，実習心得の見直し

- ・生活面，学習面全般に関するアンケートを実施した。
- ・授業規律，実習心得を見直した。

(ウ) 資格取得の指導計画の見直し

- ・受験できる全ての資格について指導計画を見直した。

(エ) 若年自営者の講演会，学習発表会の実施

- ・全校生徒を対象に「日本における農業と経営 ～農業は立派な職業～」というタイトルで若年自営者の講演会を実施した。
- ・全ての学科で「農業と環境」のプロジェクト発表会を実施した（3学期）。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

ア 学科毎の「身に付けさせたい力」の明確化

(ア)「目指す進路先」・「育てたい生徒像」を見直し，学科毎の「身に付けさせたい力」を作成することにより，指導目標が明確になり，教科横断的な指導の方向性をはっきりと反映させやすくなった。また，来年度に実施を予定している全専門科目の指導計画作成の指針を示すことができた。

(イ)「目指す進路先」・「育てたい生徒像」・「身に付けさせたい力」の見直しや概略図の作成を進めることで，教員の指導や座学と実習の連携した取組が統一感をもって展開しやすくなった。

イ 指導方法，評価方法の改善

(ア)「農業と環境」における「身に付けさせたい力」の作成により，生徒に学習の到達目標を示すことができ，学習意欲の喚起につながった。また，指導のポイントが明確になり，指導計画の作成や実際の指導の場面においても，ポイントを絞った指導がしやすくなり，教員の授業力の向上につながった。

(イ) 年間指導計画や評価規準を見直すことで，科目の目標に向けた指導計画を作成することができ，指導と評価の一体化を図ることができた。

(ウ) 観点別評価方法を改善し，生徒一人一人の学習内容の定着状況が把握できた。また，観点別評価の指針ができた。

(エ) 山口農業高校版ルーブリック評価の実施により，生徒の学習意欲や定着状況がきめ細かく把握できるようになった。また，生徒と教員が授業に対する課題を共有しやすくなり，生徒と教員が同じベクトルをもって授業に取り組むことができるようになった。

(オ) 生活習慣・学習習慣のアンケートを実施することで，授業以外の時間における生徒の状況も把握でき，学習習慣に関する課題が明確になった。

(カ) 時間厳守を徹底するために，始業開始チャイムの前に音楽放送を流したことで，

生徒の「時間厳守」に対する意識が高まり、習慣付けにつながった。

(キ) 授業規律、実習心得の見直しを行い、教員の共通理解を再確認して指導に当たることができた。

(ク) 生徒の年齢に近い講師の講演により、生徒が座学と実習を関連付けて学ぶことの大切さを意識することができた。

(2) 課題

ア 学科毎の「身に付けさせたい力」の明確化

(ア) 「目指す進路先」・「育てたい生徒像」を見直し、各学科の「身に付けさせたい力」を検討し、山口農業高校の教科横断的な「身に付けさせたい力」の概略図を作成し教職員に周知したが、いかにして具体的な指導に結び付けていくかが課題である。

(イ) 「身に付けさせたい力」を生徒に定着させる方法について研究を進めていく必要がある。

イ 指導方法、評価方法の改善

(ア) 年間指導計画の見直しを行い、各単元の観点別評価規準・評価割合を見直し、評価規準・評価割合から学習の実施状況をまとめることにより、生徒の学習における興味・関心や学習の到達度を把握することができるようになったが、科目の「身に付けさせたい力」の定着について再確認する必要がある。

(イ) 生徒の現状把握を早急を実施し、指導方法の改善を速やかに行うことが必要である。

(ウ) 記録簿の内容は、各科ばらつきがあるので、自己評価を必須項目にするなどして生徒理解が進められるよう工夫改善する必要がある。

(エ) 作成した山口農業高校版ルーブリック評価をよりスムーズに活用するため改善する必要がある。

(オ) 山口農業高校版ルーブリック評価を導入して、自己評価の重要性を感じた。各科目にも導入し指導に生かす方法について研究する必要がある。

(カ) 授業規律と実習心得の徹底を図り、生徒に主体的な学習態度を身に付けさせるために具体的なルールづくりの研究を進める必要がある。

(キ) 目指す進路実現に向けて、資格試験の受験率、合格率を向上させ、生徒の学習意欲を喚起する方法の研究も必要である。

(3) 研究2年目に向けての取組

ア 外部評価も参考にし、「農業と環境」における「身に付けさせたい力」の定着を視野に入れた指導計画と評価方法を他の専門科目でも実施し、「目指す進路先」の実現に向けた指導体制の確立を図る。

イ 各学科のカリキュラムを図示することで、生徒に「身に付けさせたい力」を明確にし、生徒の学習の方向性を示す。

ウ 生活習慣・学習習慣のアンケート、ルーブリック評価の実効性を高め、生徒一人一人に対するきめ細かい指導につなげ、学習内容の確実な定着を図る。

エ 山口農業高校版ルーブリック評価の改善や生徒の自己評価項目の追加・見直しの効果を検証する。

オ 地域交流を充実させ、生徒自らの専門性を深めるとともに、異世代との触れあいによるマナーや人間関係能力の向上を図る。

カ 若年農業者の講演会、先進農家の視察等を行い、地域産業に関する理解を深め、将来の地域社会を担う人材育成に努める。

キ プロジェクト学習を充実させ、生徒の専門性を深め、課題解決能力の向上を図る。

ク 地域や中学校に取組を発信し、農業学習についての理解を深める。